

はじめに

三石 麻友美（見沼区障害者生活支援センターやどかり）

2007（平成19）年2月17、18日の両日、第5回やどかり研究所報告・交流集会（以下、報告・交流集会）が開催されました。報告・交流集会はやどかり研究所の事業として毎年開催され、会員による研究報告、発表、実践報告の場となっています。企画内容は、運営委員会において検討され、会員以外の人の特報報告のコーナーもあり、社会情勢や私たちの関心の高いテーマを検討し、講師をお招きしています。

現在、障害福祉領域では、障害者自立支援法が施行され、障害のある人の暮らしを脅かす状況が起こっています。また、日本の社会状況もワーキングプアや所得格差などが社会問題化し、先行きの不透明さを感じる状況が起こっています。

そうした社会状況の中、2006（平成18）年度の報告・交流集会は、退院促進や精神科看護に関する研究、障害のある人の回復やセルフスティグマに関する研究発表、新たな労働支援開発に関する実践報告、ネットワークづくりと政策提言や障害者施策のあり様といった内容まで、さまざまな領域の人たちが集い、実に幅広く、多彩な発表内容の報告となりました。

また、特別報告では、新潟県農協労働組合連合会の書記長である荒井一弘さんをお迎えして、佐渡におけるご自身の活動を報告いただきました。私たちの暮らしの場、仕事の場では、人間らしく暮らすこと、働くことが壊され、地域でも格差や分断の流れが否応なく押し寄せています。そうした状況の中、こうした事態に向き合い、つながりを作りながら、人間が丸ごとの人間として認め合い、生きていくことが可能となる地域や職場をどう作っていくのか、日本の社会的背景も踏まえ、語ってくださいました。

報告・交流集会も5回目を迎え、会員数も約180名となり、福祉・看護、保健など、さまざまな領域の人たちとのつながりもできてきました。

やどかりの里は実践、研究、研修の三位一体の活動を進めています。今後も、精神保健福祉領域を中心としながらも、他領域の人たちとの研究交流を深め、進めていきたいと考えています。そして、研究活動の充実と発展が、私たちの実践をより豊かなものにしていくことにもつながると考えています。